

# 平成28年度 第1回京都市上下水道事業経営審議委員会議事録

日 時 平成28年7月8日(金) 午後3時～5時

場 所 京都市上下水道局本庁舎 別館1階研修室

出席者(五十音順,敬称略)

## 1 委員

小林 由香 税理士  
寺崎 愛知 市民公募委員  
中嶋 節子 京都大学教授(大学院人間・環境学研究科)  
水谷 文俊 神戸大学教授(大学院経営学研究科)  
村上 祐子 株式会社京都放送取締役・ラジオ編成制作局長

## 2 京都市

京都市公営企業管理者上下水道局長,次長,技術長,  
総務部長,総務部経営ビジョン策定担当部長,総務部経営政策担当部長,  
総務部財務・防災担当部長,総務部お客さまサービス推進室長,技術監理室長,  
技術監理室担当部長,水道部長,下水道部長,  
事務局(総務部経営企画課)

次 第

## 1 開 会

- (1)出席者確認
- (2)上下水道局出席者の紹介
- (3)京都市あいさつ
- (4)進行の確認,会議の公開について

## 2 議 題

平成28年度京都市水道事業・公共下水道事業経営評価(平成27年度事業)  
取組項目評価について(5つの重点項目に係る評価結果)

## 3 報 告

- (1)平成28年度京都市水道事業・公共下水道事業予算概要について
- (2)平成28年度京都市上下水道局運営方針及び事業推進方針について
- (3)山間地域の上下水道事業の水道事業・公共下水道事業への統合について
- (4)「琵琶湖疏水復活」平成28年春の試行事業について

#### 4 今後の予定

#### 5 閉 会

### 内 容

#### 1 開会

##### (1) 出席者確認

##### (2) 上下水道局出席者の紹介

##### (3) 京都市あいさつ

京 都 市： 本経営審議委員会は、平成25年度に設置し、以来委員として御協力いただいている方もいらっしゃるが、新たな体制として昨年9月に皆様に委員としての委嘱をさせていただいた。昨年度は3回にわたって、皆様より貴重な意見を賜った。

今年度は、改築更新や災害対策の強化といった従来からの事業のほか、本年3月に水谷委員長から意見書を頂いた地下水の利用に係る制度の創設、また、山間地域の上下水道事業の統合、さらに本年11月には日本水道協会全国会議及び水道展の開催を予定している。そして、現行の経営ビジョンは来年度末までの期間であるため、平成30年度以降の新たな経営ビジョンの策定についても全力を挙げて進めていく年である。

昨年度は様々な視点から意見を賜り、上下水道局の事業にいかすことができたと考えており、今年度についても、それぞれのお立場から貴重な意見を賜り、本市の水道事業・公共下水道事業が一步でもより良く前進できるように御協力いただきたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

##### (4) 進行の確認、会議の公開について

事 務 局： 議事及び資料の確認

水谷委員長： 本日の会議は公開とし、議事録については、後日公表することとする。

議事録は2名の委員の署名が必要ということなので、名簿順で、中嶋委員と村上委員にお願いしたい。

#### 2 議 題

平成28年度京都市水道事業・公共下水道事業経営評価（平成27年度事業）  
取組項目評価について（5つの重点項目に係る評価結果）

事 務 局： 資料の説明（資料4）

中 嶋 委 員： 中期経営プランに対する進捗を“しずく”で表現しているが、“しずく”の色

が黒い理由はあるのか。

また、資料4ページのリード文に、「(過去の)経験等を踏まえ」という文言があるが、雨量の予測等、これから起こりうる災害等を見越した施設整備というのも重要となるのではないか。

さらに、14ページにトピックとして、ワーク・ライフ・バランスに係る内容を扱っているが、女性職員の人数等に係る目標値を設定しているのか。本日も会場には男性が多いようである。

京都市：“しずく”に関しては、最終的な本冊子は予算の都合もあり白黒で印刷する。概要版についてはカラー刷りのため、昨年度同様、水色のしずくとする予定である。

未来に向けた災害予測としては、リアルタイムで雨量情報を取得できるXRAIN(エクスレイン)を活用し、今後降る雨量を予測して、体制を整えたり、土嚢の準備を行ったりしており、ソフト面での対策は現在でも進めている。一方で、ハード面の対策としては、未来を予測した整備というのは難しく、現状は、10年確率降雨(62mm/時)へ対応するための整備を進めている。

ワーク・ライフ・バランスについて、資料にある「仕事とくらし きらめきスマイルプラン」は、本年3月に、実際に仕事と子育てを両立している職員等の意見も聞きながら策定したものである。手前味噌ではあるが、良いものができたので、また後ほど御覧いただければと思う。数字上は、御指摘のとおり男性職員が多く、女性職員は全体の約9%程度、そのうち係長級以上の職員は10名程度である。こうした中、女性職員の採用率及び登用率は年々増加させており、今後も女性が活躍できる場を増やしていきたいと考えている。なお、本プランでは育休休業の取得率等の目標値も掲げている。

小林委員：資料3ページで、唯一「d」評価となっている朱雀1号幹線分水人孔築造工事に関して、最終的な冊子では工事の進捗率を掲載するのか。また、資料は工事の進捗に遅れが生じた状況に関する記載はあるが、今後、平成28年度中に完了予定のものなのか教えていただきたい。

京都市：本工事は鳥羽・吉祥院処理区の統合に係るものであるが、大きな交差点での工事である。工事を実施するためには水道・下水道のほか、電気やガスを移設する必要があるが、警察との事前協議に想定していたよりも時間を要することとなり、そのまま躯体の築造工事に入ると、出水期(6月16日～10月15日)に工程が食い込むこととなるため、工事開始を出水期以降にずらしたものである。今後は進捗管理を徹底し、平成28年度中に本工事を完了させる予定である。

なお、評価の基準については、お手元に御用意している資料のうち、平成27年度経営評価の37ページに記載している。工事に係る評価の場合、30%～49%が「d」評価となり、御質問いただいた工事については進捗率が40%であったため「d」評価となったものである。

小林委員： 資料4は外部に公表するものか。

京都市： 資料4は、最終的に公表する冊子の一部分を抜粋したものと本日御提示している。本冊子には、昨年度の冊子同様、先程御覧いただいた評価基準に係る記載も掲載する。

寺崎委員： 平成27年度第3回委員会で、用語解説用として概要版冊子へのQRコードの活用や簡易な用語解説の掲載等の議論があったが、どうされる予定か。

資料7（平成28年度京都市上下水道局事業推進方針）の25～26ページには用語解説がある。ページ数としては2ページだが、非常に分かりやすいと感じた。

京都市： QRコードについては、前回の委員会にて、使いにくい方のことも考えて冊子内に簡易な解説を加えてはどうかとの意見を水谷委員長から頂いたことも踏まえつつ、概要版冊子の用語解説について検討していきたい。

村上委員： 小林委員同様、「d」評価となっている朱雀1号幹線分水人孔築造工事が印象に残った。こうしたものについては、行間で簡単な説明を加えるのではなく、別途進捗に遅れが生じていることを説明する場所を設けてはどうか。

また、本冊子及び概要版について、それぞれの対象は誰か。

京都市： 本冊子及び概要版ともにホームページで公表しているものであり、いずれも市民の皆様を対象としたものであるが、本冊子については内容も多いため、より親しみやすいものとして概要版冊子を作成している。

村上委員： 先程の事務局からの説明は非常に分かりやすかったが、これは、資料の中で見るべきポイントを丁寧に説明いただいたからだと思う。冊子として作成を進める際には、ポイントとなる箇所のフォントを変えて強調する、読みづらい長文を改める等の工夫を凝らし、先程の説明の内容が十分に伝わる冊子となるようお願いしたい。

京都市： 先程御指摘いただいた評価結果に対する説明については、本冊子で設けている「課題及び今後の取組」という項目で触れたいと考えている。また、フォン

トの調整等については、より読みやすい資料となるよう検討してまいりたい。

水谷委員長： 好みの問題だとは思いますが、各重点項目のリード文の文末をすべて「！」としていることに違和感を覚える。

京都市： 各重点項目のリード文については、後程説明する資料6（平成28年度京都市上下水道局運営方針）の文章を用いているものであるが、御指摘の「！」については、特段こだわりをもって用いている表現ではない。

水谷委員長： すべての箇所に「！」が付いていると、どの部分を強調したいのかが伝わりにくい。また、内容が軽くなってしまうような印象を受ける。若い方の観点から寺崎委員はどう感じるか。

寺崎委員： 「！」があると意気込みを感じる。

小林委員： 議論の対象となっている文章について、運営方針の文章を用いているとのことであるが、経営評価冊子に記載する内容としては、評価対象年度の目標等を記載するのが妥当ではないか。

すべての文章に「！」が付いている点については違和感を覚える。

村上委員： 一部にだけ「！」を付けるというのも全体のバランスから考えるといかがなものかと思う。

京都市： 御指摘いただいた箇所の表現については、皆様から頂いた御意見を整理して検討する。

中嶋委員： 「！」にすることで文章に対する何らかの意図は感じるが、内容を重視すべき部分かと思うので、「！」自体にはそこまで違和感はない。

また、資料4と昨年度の経営評価冊子とで、同じ写真を用いている箇所がある。できるだけ異なる写真を用いていただきたい。

水谷委員長： 本日各委員から出た意見を踏まえつつ、より良い冊子となるよう作成作業を進めていただきたい。

### 3 報告

(1) 平成28年度京都市水道事業・公共下水道事業予算概要について

事務局： 資料の説明（資料5）

水谷委員長： 資料3ページのグラフでは有収水量が減少している一方で、4ページのグラフでは水道料金収入が平成24年度まで減少した後、平成25年度から増加に転じている理由について伺いたい。

また、企業債未償還残高の減少については目標値があるものなのか。

京都市： 4ページの水道料金収入に係るグラフについては、平成25年10月からの料金改定において水道料金は9.6%の値上げ（下水道使用料は3.0%の値下げ）を行ったため、平成25年度は前年度に比べて増加となった。

また、企業債未償還残高に係る目標値については、現行の中期経営プランの最終年度である平成29年度末に、水道事業・公共下水道事業合わせて約4,700億円にすることを目標としている。

(2)平成28年度京都市上下水道局運営方針及び事業推進方針について

事務局： 資料の説明（資料6及び7）

寺崎委員： 資料6の4ページの「環境保全の取組の推進」に関して、最近、下水熱の利用が注目されており、滋賀県においても関西電力や積水化学工業、日水コンなどと連携して下水熱の利用を検討中又は開始していると聞いている。夏は冷たく、冬は温かいため効率的な熱利用となる下水熱は、上下水道局だからこそできる取組みだと考えており、京都市の取組状況を伺いたい。

京都市： 本市の取組状況として、市内に布設している下水道管が持つエネルギーをまとめたポテンシャルマップと呼ばれるものを作成しているところである。そのうち、鳥羽処理区については一定完成している状況であるが、机上で作り上げたものであるため、市内2箇所の実態調査を実施した。詳細な分析はこれから行うところであるが、今後、市内の民間事業者等が下水熱の活用を検討する際に活用いただけるように、当該マップの作成作業を続けてまいりたい。上下水道局としては、水環境保全センターにおいてどのように活用できるのか検討していく。

小林委員： 先程の資料5（平成28年度京都市水道事業・公共下水道事業予算概要）にも関連するが、地域事業（山間地域の上下水道事業）については水道及び下水道の双方に係る内容なのか。資料5の1ページに水道事業で47億円、公共下水道事業で43億円の黒字の見込みとなっているが、当該黒字の額を導出する過程で地域事業が関連するのであれば、地域事業を水道と下水道に分けて記載するべきと考える。

また、当該黒字見込みについては、平成25年度の料金改定の影響もあるものだと考えているが、客観的に見ると、黒字になるのであれば料金改定（値上

げ)をする必要はなかったのではないかと捉えられる恐れがある。この点についても御説明をいただきたい。

京都市： 地域事業については、御指摘のとおり水道及び下水道の双方に係る事業であるが、現状として、下水道に係る整備事業は完了しているため、平成28年度予算については水道事業に係るもののみである。また、地域事業のうち水道事業については、資料5の11ページにある地域水道事業と12ページの京北地域水道事業の2つに分かれている。

黒字見込みについては、資料5の5ページを御覧いただきたい。「平成28年度(予算)」として、水道事業で46億6千万円、公共下水道事業で43億1千万円の見込みとしているが、平成26年度からの会計制度の見直しに伴い、現金収入を伴わない長期前受金戻入等も含めて最終的な純利益として計上されることになるため、複雑である。これを踏まえ、旧会計基準で算出した現金を伴う実質的な純利益について赤の波線で示しており、平成28年度は水道事業で25億2千万円、公共下水道事業で32億5千万円を見込んでいる。また、説明が難しい内容になるが建設事業との関連について、資料5の8ページを用いて御紹介する。先程説明した純損益等の内容は8ページの左側に記載しており、建設事業に関してはページ右側の資本的収支を御覧いただきたい。(水道事業の建設改良費として182億5千8百万円と記載しており、この事業費は自己資金の活用や企業債の借入れ等で賄っているものであるが、これらはページ左側の減価償却費や支払利息として計上することで(会計上)費用化している。やや説明が複雑となったが、単純に収入から支出を引いたものが(現金を伴う)利益とならないため、その点に留意いただきたい。

小林委員： 黒字分については施設の更新等に充てているものだと思うが、一般的に注目されるのは収益的収支における純損益であるため、本資料は公表しているものということも踏まえ、丁寧な説明が必要であると感じた。

京都市： 会計制度の見直しに係る説明には苦慮しているのが実情であるが、頂いた御意見も踏まえつつ、工夫していきたい。

水谷委員長： 小林委員の質問及び指摘は、会計制度の見直しの影響で利益が大きく見えることで、市民に対して料金改定をすべきではなかったのではないかという誤解を生じさせかねないという趣旨である。その点に注意して、今後も、より分かりやすい説明を心掛けていただきたい。

中嶋委員： 資料6の7ページに記載されている、直結式給水を拡大すると「優れた景観の保全にも資する」とは、どういう意味か。

京 都 市： ホテル・旅館等は，通常，一旦受水槽に水を貯めて，屋上の高架水槽から各  
部屋へ水を送っているが，当該高架水槽が不要となるため，景観の保全に資す  
るものである。

中 嶋 委 員： 適用範囲を見直すとはどういうことか。

京 都 市： ホテル・旅館等では，受水槽に水を貯めてから屋上の高架水槽を通じて水を  
送る，又は直接ポンプで各部屋へ水を送るという方式を用いているが，受水槽  
を用いず，直接各部屋へ水を送る適用範囲を見直したという意味である。

中 嶋 委 員： 3ページや5ページで資料中に用語解説を入れているが，質問した直結式給  
水に係る内容も含め，いくつか分かりにくい言葉があるので，解説を加えるなど  
工夫していただきたい。

村 上 委 員： 7ページの一番下に「局名のあり方についても併せて検討」とあるが，局名  
の変更に係る検討は続いているのか。

京 都 市： 局名については，委員の皆様にも御報告したように，昨年度，アンケートを  
実施し市民の皆様からも御意見をいただきながら検討を進めたところである。  
御指摘の箇所は，様々な事業を展開していることも踏まえ，新たな経営ビジョ  
ンの策定を進める中でも検討を進めるという趣旨で記載しているものであるが，  
局名を変更することを前提に検討するのではなく，様々な方から意見を頂きな  
がら考えていく。

### (3) 山間地域の上下水道事業の水道事業・公共下水道事業への統合について

事 務 局： 資料の説明(資料8)

(質問等なし)

### (4) 「琵琶湖疏水復活」平成28年春の試行事業について

事 務 局： 資料の説明(資料9)

(質問等なし)

## 4 今後の予定

次回の経営審議委員会については，事前に日程調整した結果，9月9日(金)16時～  
18時に開催することとした。

## 5 閉 会